

PHIL HAR MONY

January 2022
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。ただし状況により係りがもぎる場合があります。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。
- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- クロークは休止しております。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
- 厚生労働省による新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)や自治体独自の通知アプリなどの活用を推奨いたします。

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください

PHILHARMONY

CONTENTS
JANUARY 2022

1

- 3 [公演プログラム] Ikebukuro Program A
8 [公演プログラム] Program B
13 [公演プログラム] Ikebukuro Program C
17 [シリーズ] N響百年史 | 第25回 | 師弟と2つのオーケストラ 片山杜秀
- 21 2022年2月定期公演の聴きどころ
——公演企画担当者から
- 23 チケットのご案内(定期公演 2021年9月~2022年6月)
24 2021-22定期公演プログラム
26 2022-23定期公演予定
27 特別公演/各地の公演
31 NHK交響楽団メンバー
32 特別支援・特別協力・賛助会員
36 曲目解説執筆者/ Information
37 みなさまの声をお聞かせください!
38 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO
Members
- [Artist Profiles & Program Notes]
39 Ikebukuro Program A
42 Program B
44 Ikebukuro Program C
46 The Subscription Concerts Program 2021-22
48 The Subscription Concerts Program 2022-23
49 役員等・団友

インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは37ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

With Special Support of

岩谷産業株式会社

Iwatani Corporation

 三菱地所株式会社

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

 みずほ銀行

Mizuho Bank, Ltd.

公益財団法人 渋谷育英会

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

PROGRAM

池袋

A

第1948回

東京芸術劇場

1/15 土 6:00pm

1/16 日 2:00pm

指揮

原田慶太楼

ピアノ

反田恭平*

コンサートマスター

白井 圭

ショパン(グラズノフ編)
軍隊ポロネーズ イ長調 作品40-1
(管弦楽版) [4']

ショパン(ストラヴィンスキー編)
夜想曲 変イ長調 作品32-2
(管弦楽版) [8']

パデレフスキ
ポーランド幻想曲 作品19*[24']

——休憩(20分)——

ストラヴィンスキー
バレエ音楽「火の鳥」(1910年版) [47']

I 序奏
[第1場]

- II カッチェイの魔法の庭園
- III イワン王子に追われた火の鳥の登場
- IV 火の鳥の踊り
- V イワン王子に捕えられた火の鳥
- VI 火の鳥の嘆願
- VII 魔法にかけられた13人の王女たちの登場
- VIII 黄金のリンゴと戯れる王女たち
- IX イワン王子の不意の登場
- X 王女たちのホロヴォート(ロンド)
- XI 夜明け
- XII イワン王子、カッチェイ城に突入
- XIII 幻想的なカリヨン、カッチェイの城番の怪物たちに捕えられるイワン王子
- XIV 魔王カッチェイが登場
- XV イワン王子とカッチェイの対話
- XVI 王女たちの哀願
- XVII 火の鳥の登場
- XVIII 火の鳥の魔法にかけられたカッチェイの手下たちの踊り

(次頁に続く)

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは37ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

- XX カッチェイたち一味による魔の踊り
 XX 火の鳥の子守歌
 XXI カッチェイの目覚め
 XXII カッチェイの死
 XXIII 深い闇

[第2場]

- XXIV カッチェイの城と魔法が消え、石にされていた騎士たちがよみがえる。フィナーレ

後援：豊島区

Artist Profiles

原田慶太楼 (指揮)



1985年、東京生まれ。高校2年生のときに単身アメリカ合衆国へ渡り、インターロックン芸術高校音楽科でフレデリック・フェネルに師事した。その後、セントペテルブルクでも指揮法を学び、2006年にモスクワ交響楽団を指揮してデビュー。アメリカに戻り、ロリン・マゼールに師事。2009年、マゼールの主宰するキャッソルトン音楽祭に参加。2010年、タングルウッド音楽祭において、ジェームズ・レヴァインの代役で《ナクソス島のアリアドネ》を指揮。シンシナティ交響楽団、シンシナティ・ポップス・オーケストラ、アリゾナ・オペラのアソシエイト・コンダクターを歴任。2018年には、ブルガリア国立歌劇場日本公演で《カルメン》を指揮する。2020年、米国のサヴァンナ・フィルハーモニックの音楽&芸術監督就任。2021年からは東京交響楽団正指揮者を兼務している。

N響とは、2019年8月の初共演で大きな成功を収める(このとき、《ラプソディ・イン・ブルー》で反田恭平が独奏を務めた)。2020年の11月公演では2つのプログラムを披露。そのなかのバーンスタイン、ピアソラ、マルケスなど広くアメリカの音楽を集めた演奏会のライブ録音がアルバムとしてリリースされた。2021年5月にはヒナステラやファリャなどのラテン系プログラムを指揮し、こちらのライブ・アルバムも同年12月にリリース。同年8月には、「夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート」に再び登場し、指揮とトークで聴衆を魅了した。

[山田治生 / 音楽評論家]

反田恭平 (ピアノ)



1994年生まれ。2012年、桐朋女子高等学校音楽科(共学)在学中に第81回日本音楽コンクールピアノ部門第1位。その後、モスクワ音楽院を経て、現在はショパン国立音楽大学(旧ワルシャワ音楽院)研究科で学ぶ。2016年サントリーホールでのデビュー・リサイタルをはじめ、全国各地での公演が完売となるなど、現在もっとも人気のある若手日本人ピアニストのひとり。2021年10月にはショパン国際コンクールで

第2位を受賞した。

これまで、ベルリン・ドイツ交響楽団、マリンスキー劇場管弦楽団、ロシア・ナショナル管弦楽団などと共演。2020年にはウィーン楽友協会デビューを果たした。ジャパン・ナショナル・オーケストラや新レーベルの創設など、ピアニストとしてだけでなく、クラシック音楽界のための活動にも取り組む。N響とは「Music Tomorrow 2017」や「夏だ！ 祭りだ!! N響ほっとコンサート」などで共演しているが、定期公演への出演は今回が初めて。

[高坂はる香／音楽ライター]

Program Notes | 重川真紀

本日演奏される4曲は、いずれも19世紀末から20世紀半ばに活躍したロシアとポーランドの作曲家たちによるものである。ここで鍵となっているのが、彼らの共有財産としてのフレデリック・ショパン(1810~1849)の存在だ。ピアニストとしてショパンの次の時代を担ったパデレフスキ。ショパンのピアノ曲をもとにバレエ曲を書いたグラズノフやストラヴィンスキー。ロシア・バレエ団の結成からストラヴィンスキーのデビューまで、意外性のある東欧の音楽史の展開を、バレエと協奏曲の華やかな響きとともに味わおう。

ショパン(グラズノフ編)

軍隊ポロネーズ イ長調 作品40-1 (管弦楽版)

アレクサンドル・グラズノフ(1865~1936)が手がけた〈軍隊ポロネーズ〉の管弦楽版は、彼の《組曲「ショピニアーナ」》作品46(1893)の中の1曲。現在では、振付師ミハイル・フォーキンによる同名のバレエ作品の幕開けを飾る曲として知られる。全体はショパンのピアノ小品を寄せ集めた構成をとり、組曲は〈軍隊ポロネーズ〉作品40-1、〈夜想曲〉作品15-1、〈マズルカ〉作品50-3、〈タランテラ〉作品43の4曲からなっていたが、舞踊化に際して〈ワルツ〉作品64-2が追加され、バレエの方は5つの踊りからなる作品に仕上げられた。新たに追加された〈ワルツ〉の編曲もグラズノフによるものである。

曲は3部形式。均整のとれたオーケストレーションと19世紀後半ならではの華麗な金管楽器の音色によって、原曲の勇壮で華麗な雰囲気余すことなく表現されている。

作曲年代	1893年
初演	《組曲「ショピニアーナ」》の初演は1893年12月、リムスキー・コルサコフ指揮。《バレエ「ショピニアーナ」》は1907年2月10日、帝室マリンスキー劇場
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、シンバル、小太鼓、トライアングル、弦楽

シヨパン(ストラヴィンスキー編)

夜想曲 変イ長調 作品32-2(管弦楽版)

《夜想曲 変イ長調》の管弦楽版は、イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882~1971)が、セルゲイ・ディアギレフ率いるロシア・バレエ団のために書いた最初の作品である。これは1909年にパリで行われた旗揚げ公演の演目《レ・シルフィード》のための音楽だった。このバレエは、1907年にフォーキンがグラズノフの組曲を舞踊化した《シヨピニアーナ》を改訂したもので、内容とともに音楽も〈ワルツ〉を残して一新されていた。ストラヴィンスキーはディアギレフの要望に応じて、演目の冒頭を飾る〈夜想曲〉と終曲〈華麗な大円舞曲 変ホ長調〉作品18の2曲の編曲を担当した。改訂版の編曲にはリヤードフやチェレブニンも携わったという。

《レ・シルフィード》は、月夜に森の奥深くに迷い込んだ詩人とシルフィード(風の精)が舞い踊る様子を描いたもので、明確な筋書きはない。ストラヴィンスキーは幾度も繰り返される旋律を弦楽器と管楽器に振り分け、両者の音色の違いを活かしつつ、原作にはないフレーズを対旋律として挿入するなど、まるで対話のように音楽を紡いでいる。

作曲年代	1909年
初演	1909年6月2日、パリ、シャトレ劇場
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、大太鼓、ハープ1、チェレスタ1、弦楽

パデレフスキ

ポーランド幻想曲 作品19

イグナーツィ・ヤン・パデレフスキ(1860~1941)は、世界的なピアニストであり、1918年に再興したポーランドの首相でもある。1893年に書かれた《ポーランド幻想曲》は、自身のレパートリーとして作曲されたもので、ヴィルトゥオーソならではの華やかな作品となっている。ポーランド舞曲との関連をほのめかす音楽に、熱烈な愛国者だった彼の、祖国への想いも感じ取れよう。

曲は4つの部分からなるが切れ目なく演奏される。「アレグロ・モデラート」(嬰ト短調、2/4拍子)で作品全体を貫く主要主題が提示されたのち、副主題が現れる。続く「ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロppo・エ・ポイ・モルト・アツェレランド」(ハ長調、3/4拍子)はマズルカ風の軽快な音楽。「アンダンテ・ソステヌート」(ト短調、4/8拍子)では、アレグロ部分の副主題にもとづく哀歌調の旋律がピアノと管弦楽の間で対話のように静かに繰り返される。「アレグロ・ジョコーソ」(変イ長調、2/4拍子)は快活なクラコーヴィアク風の音楽。主要主題にもとづく力強いカデンツァを経て、華々しいコーダで曲は閉じられる。

作曲年代	1893年
初演	1893年10月4日、ノリッジの音楽祭にて。パデレフスキ独奏、アルベルト・ランデッガー指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、シンバル、グロッケンシュピール、ハープ1、弦楽、ピアノ・ソロ

ストラヴィンスキー

バレエ音楽「火の鳥」(1910年版)

1909年6月のロシア・バレエ団によるパリ公演が成功に終わり、次のシーズンに向けて構想を練り始めたディアギレフは、フォーキンとともに民話「火の鳥」を題材にしたバレエを考案する。作曲は当初ロシア音楽界の重鎮リャドフに依頼したが、遅々として筆の進まない老作曲家にしびれを切らしたディアギレフは、《レ・シルフィード》での仕事ぶりを認めていたストラヴィンスキーに白羽の矢を立てた。興行師から打診を受けたストラヴィンスキーは、当時取り組んでいた《歌劇「夜啼きうぐいす」》の作曲を中断し、《火の鳥》の作業に取りかかったという。

物語はいくつかのロシア民話をもとにしており、イワン王子が火の鳥の魔力を借りて魔王カッチェイに挑み、見事王を滅ぼして囚われていた王女たちを救出するというもの。バレエはイントロダクションと2つの場からなり、切れ目なしに演奏される。

曲は弦楽器のうねるような音型で始まり、魔の王国の夜の情景が描き出される。木管楽器による火の鳥の動機が現れると、音楽は色彩豊かな響きへと一変する。その後、東洋風な〈火の鳥の踊り〉、ロシア民謡にもとづく〈王女たちのホロヴォート〉を経て、トランペットによる短い動機を契機に魔王カッチェイが登場。王子を救うべく姿を現した火の鳥の魔法で一味が踊り狂う〈カッチェイたち一味による魔の踊り〉では、シンコーペーションのリズムとともにクライマックスに達する。優しく包むような〈火の鳥の子守歌〉のあと、ファンファーレと打楽器の強打によってカッチェイの目覚めと死が描かれる。第2場に入ると、音楽はロシア民謡の主題を繰り返しながら壮麗なコーダへ向かい、イワン王子と解放された王女の結婚式で曲は華々しく閉じられる。

作曲年代	1909年11月～1910年5月18日、 Санктペテルブルク
初演	1910年6月25日、パリ・オペラ座、ガブリエル・ピエルネ指揮、ロシア・バレエ団
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、ピッコロ1、オーボエ3、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3(Esクラリネット1)、バス・クラリネット1、ファゴット3(コントラファゴット1)、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、タムタム、シロフォン、グロッケンシュピール、ハープ3、ピアノ1、チェレスタ1、弦楽、バンダ：トランペット3、ワーグナー・チューバ4、鐘

PROGRAM

B

第1950回

サントリーホール

1/26 水 7:00pm

1/27 木 7:00pm

指揮 ジョン・アクセルロッド

ピアノ 吉川隆弘

コンサートマスター 篠崎史紀

ハチャトゥリヤン

組曲「仮面舞踏会」—「ワルツ」[4']

プロコフィエフ

ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

[27']

I アンダンテ—アレグロ

II アンダンティーノ

III アレグロ、マ・ノン・トロツポ

—休憩(20分)—

プロコフィエフ

交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

[45']

I アンダンテ

II アレグロ・マルカート

III アダージョ

IV アレグロ・ジョコーソ

※ 当初予定の出演者・曲目から変更になりました。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは37ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ジョン・アクセルロッド(指揮)



ジョン・アクセルロッドは現代曲を含む幅広いレパートリー、革新的なプログラミング、そしてそのカリスマ性で世界各国のオーケストラから常に共演を望まれている指揮者のひとりである。ルツェルン交響楽団および同歌劇場の音楽監督兼首席指揮者、フランス国立ロワール管弦楽団音楽監督、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団首席客演指揮者、スペイン王立セビリア交響楽団音楽監督を歴任。これまで150以上の世界各地のオーケストラを指揮、近年ではバイエルン放送交響楽団、スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ブラハ放送交響楽団、ネーデルランド・フィルハーモニー管弦楽団、アントワープ交響楽団、RAI国立交響楽団、フィレンツェ五月祭管弦楽団等へ客演。現在、京都市交響楽団首席客演指揮者。

オペラ指揮者としても意欲的な活動を展開、ルツェルン歌劇場での数々のプロダクションに加え、パリ・シャトレ座、ミラノ・スカラ座での《キャンディード》(カーセン演出)、アンジェ・ナント歌劇場での《トリスタンとイゾルデ》(ピイ演出)、コロナ禍で開催されたプッチーニ音楽祭での《ジャンニ・スキッキ》の成功は特筆される。とりわけ現代作品の紹介には積極的に取り組み、ファン・デル・アー、ダルバヴィ、デュサパン、リーム、サーリアホ、ヴァイトマン等の初演を手掛けている。

ヒューストン生まれ。ハーバード大学を卒業、指揮をレナード・バーンスタインとイリヤ・ムーシンに学んだ。N響とは2010年1月定期公演で初共演以来、たびたび共演を重ねている。

吉川隆弘(ピアノ)



1973年兵庫県生まれ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。大学院修了時にベーゼンドルファー賞受賞。これまでに志水英子、堀江孝子、辛島輝治の各氏に師事、イタリアではアルフレッド・コルトーおよびアルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリの高弟アニタ・ポリーニに師事するかたわら、ミラノ・スカラ座アカデミーにおいて室内楽を、また作曲をシルヴィア・ビアンケーラ・ベッティネリに学ぶ。

現在はミラノを拠点にソロや室内楽で活躍。ミラノ・スカラ座管弦楽団、スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団などで、リッカルド・シャイー、ダニエレ・ガッティ、インゴ・メッツマッハーなどと共演。幅広いレパートリーでの録音への評価も高く、ドビュッシー、シューマン、リストの各作品集は『レコード芸術』の特選盤に選出されている。

N響との初共演は2021年の「Music Tomorrow 2021」。間宮芳生《ピアノ協奏曲第2番》で渾身のソロを聴かせたのも記憶に新しい。今回は2度目の共演となる。

20世紀のロシア・ソヴィエト連邦を代表する作曲家、アラム・ハチャトゥリヤン(1903～1978)とセルゲイ・プロコフィエフ(1891～1953)によるプログラム。アルメニアの民族的なルーツからリズムカルな音楽で世界中を魅了するハチャトゥリヤンとプリミティブかつアクロバティックな音楽で異次元の鮮烈なインパクトを生み出すプロコフィエフ。盟友であった2人の作曲家が生き抜いた軌跡を映し出す記念碑的作品は、時代を超える斬新な響きと^{ざんしん}なってエネルギーに紡ぎ出されることだろう。

ハチャトゥリヤン

組曲「仮面舞踏会」—「ワルツ」

19世紀のロシアの詩人、ミハイル・レールモントフ(1814～1841)の戯曲『仮面舞踏会』(1835)のために創作されたのが劇音楽《仮面舞踏会》(1941)である。ハチャトゥリヤンは、劇音楽(全14曲)から、ワルツ、ノクターン、マズルカ、ロマンス、ギャロップの5曲を選び、管弦楽用の組曲《仮面舞踏会》(1944)として再創作した。本作は、組曲のなかの第1曲〈ワルツ〉である。レールモントフの戯曲では、ロシアの貴族社会における仮面舞踏会を舞台に、人間の持つ嫉妬や憎悪といった負の感情をドラスティックに表出させた^{ふくしゅうげき}復讐劇が展開される。主役のアルバーニンの妻ニーナが、仮面舞踏会でプレスレットを紛失するというアクシデントからすべてが始まり、人を愛することと憎むことが表裏一体という真理がダイレクトに描写されるが、ハチャトゥリヤンは、この戯曲と芸術的に合致する音楽を創作した。同時期にバレエ音楽《ガイーヌ》(1942)や《ヴァイオリン協奏曲》(1940)、《交響曲第2番「鐘」》(1943)などの傑作も生み出されている。ハチャトゥリヤンの音楽は、ロシアという地域的な基盤を超越したリズムックでオリエンタルな響きに特徴がある。〈ワルツ〉は、イ短調、3/4拍子、複合3部形式で、冒頭12小節の導入のあと、優美でロマンティックな主題がヴァイオリン、ヴィオラ、ファゴットによってカノンのように提示される。フレーズの終わりのリタルダンドの使用によって、ワルツのテンポが効果的に揺らぐ。中間部ではハ長調へ転調し、木管楽器と弦楽器が各々の旋律を対比的に提示する。再現部では主調のイ短調へ回帰し、繰り返しが省略された再現で終結する。

作曲年代	[劇音楽]1941年 [組曲]1944年
初演	[劇音楽]1941年6月21日、モスクワ、ヴァフタンゴフ劇場、アレクサンドル・ゴルブツェフ指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、小太鼓、シンバル、大太鼓、弦楽

ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

20世紀のピアノ協奏曲のなかでも、国際的に高い人気を誇る本作は、1917年から1921年にかけて一時的な中断を経ながら、断続的に創作された作品である。作曲家自身のピアノによって1921年に初演され、当時から好評を博した。ロシア革命を契機として1918年に祖国ロシアを出国し、日本経由で渡米したプロコフィエフは、同地ではピアニストとして演奏活動も行っていた。プロコフィエフは、スケッチブックに主題素材をストックし、様々な主題を選んで組み合わせるといった独自の創作スタイルを確立しており、本作でもスケッチブックから主題が選り抜かれている。各々の主題が各楽章の音楽的な特徴を形成し、楽曲全体が古典的な形式構造を有する。なおこの作品は、ロシア象徴主義の詩人であるコンスタンティン・バリモントに献呈された。

第1楽章は、アンダンテ・アレグロ、ハ長調、4/4拍子、ソナタ形式。序奏の主題としてアンダンテでクラリネット、フルート、ヴァイオリンによってロシア民謡風の旋律が提示される。ピアノによって奏される第1主題は、序奏の主題音型とも関連する。元来、プロコフィエフはピアノの白鍵のみで構成されるような音楽の創作を試行したという経緯があり、その影響によって、主題の一部が全音階的音型で構成されている。第2主題は、半音階的な音型を含む叙情的な旋律ラインで提示される。技法面では、対位法的書法やオスティナート音型によるリズム的な強調なども確認できる。第2楽章は、アンダンティーノ、ホ短調、4/4拍子、変奏曲。主題の構造上のアウトラインは全音階的な音組織で構成されている。主題が提示されたあと、第1から第5変奏まで旋律、和声、リズム面で多彩な変化に富む変奏曲が続く。第2楽章全体を包括するリリズムの要素は、第1楽章と第3楽章とも音楽的なコントラストを生み出す。第3楽章は、アレグロ、マ・ノン・トロポ、ハ長調、3/4拍子、ロンド形式。1918年の日本滞在中に耳にした長唄《越後獅子》の一部が主題に組み込まれたとされており、東洋風の響きで上下行する特徴的な旋律が、3拍子のリズムとともにアクセントを伴って提示される。第3楽章でも主題素材が全音階的に構成されており、全楽章を通じて楽曲の構造上の統一性が確認できる。ピアノと管弦楽の相互の掛け合いで、フィナーレのクライマックスまでアグレッシブに音楽が展開される。ピアノの打楽器的な使用、リズム的な駆動性によるメカニカルな聴覚的印象といった初期のプロコフィエフの音楽的な特徴は、当時、アメリカで浸透していた機械やテクノロジーの発展を称揚する実験的精神(マシン・エイジ)の美学ともオーバーラップする。

作曲年代	1917～1921年
初演	1921年12月16日、シカゴ、フレデリック・ストック指揮、シカゴ交響楽団、作曲家自身の独奏
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、カスタネット、タンブリン、大太鼓、サスペンデッド・シンバル、弦楽、ピアノ・ソロ

交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

プロコフィエフは、アメリカおよびヨーロッパで長期の海外生活を経て、1930年代に祖国ソヴィエトへ帰国した。生涯に渡って全7曲の交響曲を創作したが、本作は、祖国帰還後に「戦争」をテーマとする作品として、《歌劇「戦争と平和」》(作品91)や戦争ソナタ三部作と同時進行で作曲された交響曲である。ロシア国民楽派のボロディン(1833~1887)の《交響曲第2番》やショスタコーヴィチ(1906~1975)の《交響曲第7番「レニングラード」》ともよく比較される。1944年に完成し、翌年に作曲者自身の指揮によって初演された。プロコフィエフは、スケッチブックにおいて主題素材を揃えており、短期間でこの作品を完成させた。全体的に古典的な構造で統一されているが、随所にプロコフィエフの音楽の仕掛けが施されている。

第1楽章は、アンダンテ、変ロ長調、3/4拍子、ソナタ形式。第1主題はフルートおよびファゴットによる簡素なモチーフで提示される。第2主題はフルートおよびオーボエで提示され、急な転調を伴う。楽曲途中の急な転調、音の跳躍、調性から逸脱した変則的な音の投入という独自の技法は、プロコフィエフの音楽全般に通底する典型的な特徴である。展開部では、異なる主題群が音楽の進行とともに対位的なテクスチャで織り込まれて構成される。再現部では、調性に变化が加えられており、第1主題の変形によって終結部が形成される。第2楽章は、アレグロ・マルカート、ニ短調、4/4拍子、3部形式。独特の軽快な主題が急速なパッセージで提示されており、オスティナート音型によるリズム的な強調がみられる。中間部では木管楽器で叙情的な旋律が提示される。第3楽章は、アダージョ、ヘ長調、3/4拍子、ロンド形式。プロコフィエフは、晩年に「旋律の重要性」について語ったが、緩徐楽章では、他の楽章以上に旋律ラインの美しさが際立つ。戦争と関連する悲哀の表現からは、第2次世界大戦期に創作された作品の迫真性が感じられる。第4楽章は、アレグロ・ジョコソ、変ロ長調、2/2拍子、ロンド形式。第1楽章の第1主題が回想されたあと、クラリネットによる急速で活気に満ちた主題が提示される。楽章間での主題の転用が顕著であり、同時期に創作された戦争ソナタ三部作と同じく、作品全体において循環構造が確認できる。勝利を確信するかのようなフィナーレで終結する。

作曲年代	1944年
初演	1945年1月13日、モスクワ、モスクワ音楽院大ホール、モスクワ国立交響楽団、作曲者自身の指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ2、ウッド・ブロック、タンブリン、トライアングル、小太鼓、シンバル、サスベンデッド・シンバル、大太鼓、タムタム、ハープ1、ピアノ1、弦楽

PROGRAM

池袋



第1949回

東京芸術劇場

1/21 金 7:30pm

1/22 土 2:00pm

指揮 ジョン・アクセルロッド | プロフィールはp. 9

ヴァイオリン 服部百音

コンサートマスター 篠崎史紀

[開演前の室内楽(池袋Cプログラム限定)]

21日(金)6:45pm~/22日(土)1:15pm~

ヴァイオリン: 篠崎史紀、横島礼理 ヴィオラ: 中村翔太郎 チェロ: 市 寛也 コントラバス: 西山真二
ランナー(アンゲラー編)/ワルツ「モーツァルト党」作品196

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。 ※演奏中の客席への出入りは自由です。

ブルッフ

ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調
作品26 [24']

I 前奏曲: アレグロ・モデラート

II アダージョ

III 終曲: アレグロ・エネルジコ

ブラームス

交響曲 第3番 へ長調 作品90 [33']

I アレグロ・コン・ブリオ

II アンダンテ

III ポーコ・アレグレット

IV アレグロ

※ この公演に休憩はございません。
あらかじめご了承ください。

※ 当初予定の出演者から変更になりました。

後援: 豊島区

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは37ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

服部百音 (ヴァイオリン)



SHIROHIME HATTORI

1999年生まれ。5歳よりヴァイオリンを始め、辰巳明子、ザハール・ブロンに師事。8歳でオーケストラと初共演し、11歳でミラノのヴェルディ・ホールでリサイタルを行い本格的にデビュー。現在ではNHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団などをはじめとするオーケストラや著名な指揮者と共演を重ねている。コンクール受賞歴も数多く、2009年にリピンスキ・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクールで史上最年少第1位、2013年にノヴォシビルスク国際ヴァイオリン・コンクール・シニア部門で史上最年少グランプリ、2015年にはボリス・ゴールドシュタイン国際コンクールでグランプリを受賞。2016年に初リリースしたCD「ショスタコーヴィチ：ヴァイオリン協奏曲第1番、ワックスマン：カルメン幻想曲」は『レコード芸術』の特選盤に選出される。2021年1月にブルガリア アウローラ アワードを受賞。

N響とは2016年に初共演して以来、共演を重ねている。使用楽器は日本ヴァイオリンより特別貸与されたガールネリ・デル・ジェス。

Program Notes | 小宮正安

19世紀のドイツ語圏を代表する、苗字に「B」の頭文字を持つ2人の音楽家の主要作。そこには、彼らが影響を受け、自身その担い手となったロマン派の影響が大きく表れている。さらに注目すべきは、これらの曲が19世紀後半、つまり市民階級を中心とした近代社会が発展を遂げる中、公害や格差、金融恐慌をはじめとするさまざまな問題が表れ始めた時代に作られた点だ。光の裏側に影が差す世界を、そのただなかを生きた2人の「B」は、自らの作品にいかに昇華させたのか？

ブルッフ

ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26

マックス・ブルッフ(1838~1920)は、今回演奏される《ヴァイオリン協奏曲第1番》や《コル・ニドライ》を除き、現在ではほぼ忘れ去られてしまった存在といえる。ただし生前の彼は、同世代のブラームスと並び、自他ともに認めるドイツ音楽の保守本流の継承者として有名だった。交友関係についても、シューマン夫妻をはじめ、ブラームスと重なる点が多い。

そんなブルッフが、20歳代の後半に書き、彼の出世作となったのが当協奏曲である。しかもこの作品は、当時ヴァイオリン協奏曲……というおウカ協奏曲全般にしばしば見ら

れたスタイルとは対極をゆくものだった。つまり、独奏者が華麗な技を披露する一方でオーケストラは伴奏者として引き立て役に回るのではない。独奏と管弦楽が一体となって堅固に曲を形作ってゆく、いわば交響曲的な協奏曲のあり方が志向された。しかも、3つの楽章が途切れなく演奏され、第1楽章が短調を基本とした深刻な楽想に貫かれているという、これも独奏者の腕自慢としての協奏曲とは異なるコンセプトに基づいている。

いわばこうした流れは、ベートーヴェンを通じて芽生え、その後継者と謳われたメンデルスゾーンの有名な《ヴァイオリン協奏曲》に顕著に表れたもの。甘美な慰めに満ちた第2楽章にも、メンデルスゾーンの影響を聴き取れる。ブルッフが先人をいかに意識し、その流れを継承しようとしていたかがよく分かる。

なおこの作品は、1866年に最初の版が初演されているが(ヴァイオリン独奏者はメンデルスゾーンやシューマン夫妻とも交流のあったケーニヒスレーヴ)、その後、ブラームスの盟友でもあったヴァイオリニストのヨアヒムの助言を受け、約2年にわたり改訂作業がおこなわれた。一度完成した作品に満足せず、さらなる高みを目指す……。これもベートーヴェン以降、ドイツの保守本流を自認する作曲家の姿勢であり、ここにおいてもブルッフの立ち位置が如実に窺える。

作曲年代	[初版]1864～1866年 [改訂版]1866～1868年
初演	[初版]1866年4月24日、コブレンツ、オットー・フォン・ケーニヒスレーヴの独奏、作曲家自身の指揮 [改訂版]1868年1月5日、プレーメン、ヨーゼフ・ヨアヒムの独奏、カール・ライントラーの指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

ブラームス

交響曲 第3番 へ長調 作品90

ヨハネス・ブラームス(1833～1897)ほど、最初の交響曲を完成させるのに大変に苦労したあと、吹っ切れたかのように短期間で続々交響曲を発表したのち、このジャンルから手を引いてしまった存在も珍しい。そうした中で、1883年に半年余りのスピードで書き上げられた《交響曲第3番》はどのような位置を占めているのか？

この作品を初演した指揮者のリヒターが、「この曲はブラームスの《英雄》だ」と評したというのは有名な話だ。ここで言われている「英雄」とは、ベートーヴェンの《交響曲第3番》のことであって、たしかに交響曲の番号という点では共通している。そうでなくても、ブラームス自身、ベートーヴェンを自らの先達として尊敬し、そのこともあって自らの本拠地をベートーヴェン縁の街ウィーンへ移したほど。また周囲の人間もそれを放っておかず、彼をベートーヴェンの後継者として必要以上にもてはやした(それゆえにブラームスは逆に大きなプレッシャーに苛まれ、例えば《交響曲第1番》の完成まで、多大な年月を要してしまうわけだ)。

だが、ベートーヴェンの《交響曲第3番》とブラームスのそれとでは、内容が相当に異なる。むしろブラームスの場合、ナポレオンが体現するフランス革命やその彼方に輝く市民社会への期待や熱狂が満ち溢れたベートーヴェン作品とは対照的とさえ言えよう。なにしろ交響曲の結論部分にあたる第4楽章は、それまでのさまざまな音楽的ドラマが徐々に静まる中、壮年期以降のブラームスを特徴づける諦観交じりの穏やかさで幕を閉じるからだ。つまり、ベートーヴェンの代表的な交響曲に見られるような「闘争を経て勝利へ至る」図式とは異なり、さまざまな闘争を経てしめやかに終わるといふ、新たな形式の交響曲の誕生に他ならない。

こうした新しさが、「保守的」「伝統的」と言われる要素と混然一体となっている点こそブラームスの特徴であり、そうした姿勢はこの作品でより顕著になっている。一聴すると、ベートーヴェンの《交響曲第3番》第1楽章のごとく3拍子に思える第1楽章からして、うねるようなエネルギーを滲らせた堂々たる6/8拍子で書かれているという創意。第2楽章の途中では、調性が徐々に溶解し、シェーンベルク(彼はブラームスの革新性に着目した作曲家のひとりだった)がのちに手掛けた十二音技法のさきがけのような響きも、2度にわたって登場する。

ただしそれが、単なる「実験」に終始しない点こそ、ブラームスのブラームスたるゆえんだろう。件の第2楽章の十二音技法風の箇所も、その直後にやるせないほど美しい旋律が続くことで、作曲者の感情が如実に投影された内容となっているからだ。そしてそれは、かの有名な第3楽章の憂愁に満ちた旋律へと続いてゆく。この第3楽章、3拍子を基調としているが、ベートーヴェン以降の交響曲で定番となった、荒ぶる市民階級のエネルギーを宿したかのようなスケルツォではない。哀しみに満ちたワルツともいえ、しかも通常のワルツが3/4拍子で書かれるところ、3/8拍子になっているという捻り方。

ベートーヴェンのように拳を振り上げてストレートに闘うのではなく、自らの心の内に深く沈潜し、心の襞をひとつひとつ追ってゆく音楽……。これぞ、ブラームスがロマン派と呼ばれる所以である。輝かしい発展の陰で、さまざまな問題を宿すようになった19世紀ヨーロッパの市民社会に、さらには内憂外患の中で最後の光芒を放っていた帝都ウィーンに身を置いていたブラームスだからこそ、書き得た交響曲である。

作曲年代	1883年
初演	1883年12月2日、ウィーン、ハンス・リヒターの指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

N響百年史

第二十五回 一師弟と二つのオーケストラ

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「FM」クラシックの迷宮のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。ついに始まった東京放送局の本放送、初日のプログラムには山田耕筰と近衛秀麿の名がありました。そこから見えてくる師弟の関係とは？

本放送開始!

株式会社でなく社団法人。営利よりも公益。娯楽よりも教養。大衆の趣味に合わせるのではなく、大衆の趣味を“より高きところ”に“善導”するのが使命。したがって流行歌よりも西洋クラシック音楽。演芸よりも新劇調のラジオ・ドラマ。御座敷風・芸者風の俗な邦楽よりも伝統的で気品ある芸術的な邦楽。そういう軽重をはっきりつけようとして始まった東京放送局が、ついに本放送に至ったのは、1925(大正14)年7月12日の日曜日である。芝浦の仮放送局から「試験送信」という名の実質的仮放送が始まったのは3月1日だった。およそ4か月で本放送にたどり着いた。

仮放送と本放送のどこが違うか。そもそも放送局の場所も施設も変わった。東京放送局は設立当初から、当然ながら放送のための「永久施設」の場所の選定に腐心した。3月から仮放送していた芝浦の施設は、あくまで仮。本施設建設場所の第1候補とされたのは、芝の愛宕山。そのほかに上野の山や代官山も検討されたが、無事に第1候補で用地の確保に成功。3月10日からの突貫工事で、早くも6月には、海拔26メートルの地に高さ45メートルの電波塔2つを擁する、鉄筋コンクリート3階建て、外観はクリーム色の局舎が完成した。そこにアメリカのウェスタン・エレクトリック社製の放送設備を一括購入して運び込み、7月12日に向け、準備は急ピッチで進められた。

本放送開始のマスコミ向け宣伝告知文は次のようなものである。「いよいよ芝愛宕山上の新局に引っ越しまして、けふの日曜から本放送を開始いたします」。そしてこう続く。放送スタジオの「窓は二重になっているので廊下の

声は一切入りません」。芝浦からの仮放送では廊下の音もよく電波に乗って、流れていたのだろう。さらにこなくだりも。「地下室の電気室にはモーター十余台がすゑつけられて、決して市内の停電で放送がポツンと切れる様なことはありません」。仮放送ではしょっちゅう停電しては番組が中断していたのであろう。そんな揺籃時代もついに終わりだ。放送はもつきちんとする。宣伝文には東京放送局の自信が表れている。

初日のプログラムから師弟の関係を読む

さて、7月12日の放送プログラムはどんなだったか。午前10時から陸軍戸山学校軍楽隊が国歌《君が代》を演奏。次いで放送局総裁、後藤新平の挨拶。そのあとは吹奏楽の時間。陸軍軍楽隊が最新のレパートリーを次々と披露する。この頃の日本の軍楽隊は、イギリスのいわゆるライト・クラシックの曲目に熱心だった。この日のこの時間も、アングリフの《カンタベリーの鐘》、ジョイスの《舞踏会の夢》、ケテルビーの《修道院の庭で》と、その種の楽曲が並ぶ。

それで朝の部は終わり。昼は12時半から。畳敷きの邦楽用スタジオで、能の宝生流の若き宗家、宝生重英が謡曲《羽衣》をやり、次いで気分は歌舞伎座に。坪内逍遙が豊臣家滅亡を描いた大史劇《桐一葉》から、豊臣秀次の亡霊が淀君の寝所に現れる場面を、ラジオ・ドラマに仕立てて放送する。淀君には5代目中村歌右衛門。劇界の至宝、名優の中の名優。彼がラジオ・ドラマに出る。もう大ニュースだった。共演するのは、大野治長が歌右衛門の長男の5代目中村福助、秀次の亡霊が3代目中

村時蔵。福助も時蔵も当時の花形役者。この顔合わせが生で聴ける。日本のラジオの時代の夜明けを告げる大きな番組だった。

でも昼のプログラムはこれで終わらない。次があった。能や歌舞伎と対等に並べて紹介されるべきなのは、公益と教養を謳う東京放送局としては、あらためて確認するまでもなく、西洋クラシック音楽でなければならない。しかも交響曲である。邦楽用スタジオと向き合うように設置されていた洋楽用スタジオに入ったのは、近衛シンフォニー・オーケストラを名乗る交響楽団だ。演目はベートーヴェンの《交響曲第5番ハ短調》。いわゆる《運命》である。指揮はむろん、近衛秀麿。東京放送局は今日のNHKにまっすぐにつながる。東京放送局のそこまでの「試験送信」や「仮放送」では、シンフォニーを演奏するような本格的交響楽団は登場していなかった。本放送初日に近衛の指揮した《運命》が、日本の放送史に於ける交響楽団のデビューといえる。

そして、ここにはNHK交響楽団の誕生に関わる歴史叙述の問題がからんでくる。たとえば1977(昭和52)年に刊行された『NHK交響楽団五十年史』にはこうある。山田耕筈は「近衛および36人の楽員たちと語らって、1924年、日本交響楽協会をつくり」、第1次世界大戦期に山田が率いた東京フィルハーモニー会管絃楽部に続いて「ふたたび日本のオーケストラ運動のピークを生じさせる。その最初の目覚ましい活動は」、「新装なった木挽町の歌舞伎座における『日露交驩交響管絃楽演奏会』であった」。「この大演奏会を跳躍台として日本交響楽協会を常設的なものにして、オーケストラ運動を今後共永続きさせて行きたいという風潮が起って来た」。そこに現れた東京放送局は、「日本交響楽協会の援助をすることを快

諾」し、1926(大正15)年の1月から「日本初の予約交響楽演奏会が実現する運びとなったのであった」。「山田、近衛という2人の経験を積んだ常任指揮者のもとに、楽員たちがオーケストラマンとしての自覚を持ち、シーズンに何回かの定期演奏会を開く、この点にわれわれは最も正統的なシンフォニー・オーケストラの誕生を認めてよいだろう」。

この叙述の仕方は、大筋としてはかなり正しい。しかし、細かく考えるとどうだろうか。『NHK交響楽団五十年史』の記すところを解釈すれば、こうも言い換えられるだろう。日露交驩(交歓)交響管絃楽演奏会の前に、山田は弟子の近衛と共に日本交響楽協会というオーケストラを組織していた。が、残念ながらそれは「常設的」というところまでは、すなわち、楽団員に生活できる給料を払って常雇いにするところまでは、達していなかった。東京放送局は、公益的放送にふさわしい番組をパーマネントに編成することを望み、そのために高度かつ安定的な水準を有する交響楽団を必要としていたから、日本交響楽協会に出演料や援助金というかたちで、集中してお金を投ずるようになった。そのおかげで、日本交響楽協会は隘路(あいろ)を抜けた。楽団員を常雇いでき、定期演奏会を開けるまでになった。とにかく山田と近衛は1924年から師弟で共闘して一枚岩であったというのが前提で、その一枚岩を放送局が助けた。そんな物語が、長く伝えられてきた。

が、1925(大正14)年7月12日の記念すべき本放送開始日に中村歌右衛門の一座と並んで出演した交響楽団は、日本交響楽協会ではなく、近衛シンフォニー・オーケストラを名乗っていた。1924年9月26日、報知新聞社の講堂で行われた近衛の帰朝演奏会に出演した団

体と同じ名だ。近衛が帰国後、山田と関係なく、自ら集めて運営し、常設化を目指した楽団のことだろう。1924年のうちに日本交響楽協会に統合され吸収されたのではなかったか。無いはずのこのオーケストラが、翌年夏、堂々と愛宕山で《運命》を演奏している！

すると日本交響楽協会は7月12日にどこへ行った？ 実は、夜の部の放送に、近衛のオーケストラとは別団体として登場している。長唄や尺八本曲のあと、山田耕筰指揮する日本交響楽協会が、独唱者に曾我部静子、外山国彦の2人を迎え、サン・サーンスの《クリスマス・オラトリオ》の抜粋や、山田の行進曲《JOAK》、柳原白蓮の戯曲『指鬢外道』のための音楽、歌曲《からたちの花》などを演奏した。1924年のうちに山田と近衛が一枚岩で日本交響楽協会を組織していたという、『NHK交響楽団五十年史』にも載る話を裏切る事実であろう。

「近衛独立」の真相は？

ノンフィクション作家、大野芳は著書『近衛秀麿』でこう綴る。「少なくとも一九二四年九月から翌年七月までの十一ヶ月間、交響楽団史に名をとどめ得なかった『近衛シンフォニー・オーケストラ』は厳然と存在し、日本交響楽協会が主催した日露交驩演奏会に『仕事』として参加していたことが分かる」。大野の理解では、近衛率いるオーケストラは、山田に協力して日露交驩交響管絃楽演奏会の日本側演奏者として助っ人をしていただけであり、だからそれが終われば、また山田の率いる日本交響楽協会と近衛の率いる近衛シンフォニー・オーケストラに元どおりに分かれてしまっていた。ならば1925年の7月12日に2つの団体が東京

放送局に別々に出演していても何の不思議もないわけだ。合理性のある解釈であろう。しかも、近衛はこの記念放送の中核的時間帯に大編成の《運命》を振り、山田はその日の大トリには違いないが、流れからいえばアンコール的ともいえる時間帯に、小管弦楽で済む曲目ばかりを指揮している。楽団員は近衛のほうが大勢で、山田のほうが小勢であると、見当もつく。

とすれば、東京放送局が、山田と近衛が一枚岩で運営していた日本交響楽協会を援助して、その常設楽団化を助けたとのお決まりの物語は、いくぶん不正確ということになるのではあるまいか。東京放送局は、大きめの近衛シンフォニー・オーケストラと小さめの日本交響楽協会の両方に出演機会を与え、本放送開始以降、ひとつの真に大きな交響楽団となることを促したのだろう。放送局として、クラシック音楽関係予算をまとめて有効に使うとしたら、やはりそのほうがよい。銀行が企業合併を促すようなものか。山田はもともと近衛を側近の弟子という立場に囲い込んでおきたかった。でも、山田の政治力なくして実現しなかった日露合同のコンサートが終わってしまうと、山田には近衛を引き留めておける材料がもうない。近衛は山田から巣立ったつもりで勝手にやりたいし、事実、近衛が山田よりも指揮者としての評価を高めはじめ、お金持ちでもあり、したがう楽団員も多い。とはいえ、いかに大華族の近衛家を背景にしてもいきなり交響楽団を常設化するのは無理がある。そこに放送局の仕事とお金。放送局とオーケストラのパイプも、

山田がいてこそ、後藤新平がらみで開けた経緯もあろう。放送局の支援で一個のプロフェッショナルなオーケストラが生まれ得となれば、近衛は再び師の山田を立てざるを得なくなる。

そうした経緯で、日本交響楽協会の常設化は果たされたと考えられよう。だからどうしたという向きもあるかもしれない。しかしやはり、ここが大事だ。常設化された日本交響楽協会はすぐに分裂する。近衛派が新交響楽団を名乗り、新交響楽団は日本交響楽団を経て、NHK交響楽団になる。その新交響楽団が誕生するまでのドラマの描き方が、近衛シンフォニー・オーケストラの存在にこだわるかこだわらないかで、だいぶ変わる。ずっと山田の忠実な弟子として付き従っていた近衛が師を裏切るかのように、山田のもとで長らく一枚岩だった日本交響楽協会を割って、大勢を連れ出して独立したという物語になるか。それとも、すでに山田から自立して人望も集めていた近衛が、師の顔を立てて大が小に呑まれるつもりで合流したが、やはり無理だったという物語か。真相は後者に近く、新交響楽団は近衛シンフォニー・オーケストラの直系。そう考えれば、腑に落ちることも多い。

文 | 片山杜秀 (かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

次回予告

山田耕筰率いる日本交響楽協会は東京放送局の支援を得て、ついに職業オーケストラに。いっぽう近衛シンフォニー・オーケストラは？

2022年2月定期公演の聴きどころ

公演企画担当者から

2015年9月から首席指揮者を務めたパーヴォ・ヤルヴィ。来月は在任中、最後の共演機会となる。N響の真骨頂ドイツ・ロマン派、レパートリーの柱としてきたR. シュトラウス、そして初挑戦の英米プログラムと、いずれ劣らぬ充実のラインナップで任期を締めくくる。

パーヴォ×N響の関係を語るには欠かせない ロマン派の粋を集めたプログラム

[池袋Aプログラム]はロマン派の精華、ブラームスとシューマン。2010年、パーヴォはドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団とのツアーでシューマンの交響曲全曲を演奏し、日本での人気を不動のものにした。思い返せばこの時の大成功が、N響首席指揮者就任の布石のひとつになったとも言える。

パーヴォは常々、シューマンの特質を「neurotic(神経過敏)」と表現する。熱に浮かされたような極端な感情の揺れを、時には生々しいまでに描き尽くす。彼が「作曲家の魂から生まれた」と評する《交響曲第2番》では、特にそうし

たアプローチが欠かせないのだという。

一方、ブラームスにおいては、豊かな情感と音楽の論理を共存させることが、パーヴォにとっての重要課題となる。評論家ハンスリックが「ピアノつきの交響曲」と呼んだ《ピアノ協奏曲第2番》では、細部の丁寧な表現に加え、全体の構築力やスケール感が求められよう。ソロのイゴール・レヴィットは、華やかなパフォーマンスと一線を画した、内省的で繊細な音作りが、とりわけ音楽通の間で高く評価されている。

マエストロが愛好してやまない 意欲あふれるイギリス・アメリカプログラム

[Bプログラム]では、イギリスとアメリカの作品を送る。N響との組み合わせでは珍しいが、パーヴォはこれらの曲を愛好し、欧米ではしばしば取り上げている。

バーバー《ヴァイオリン協奏曲》を弾くのは世界屈指の名手、ヒラリー・ハーン。前回の共演は2005年、同じくパーヴォの指揮でプロコフィエフの《第1番》を披露した。冷厳なまでの

正確無比なテクニックに加え、最近の演奏にはふくよかな香気が漂う。名門カーティス音楽院の大先輩であるバーバーの叙情味をたっぷり引き出してくれるだろう。

ブリテン《4つの海の間奏曲》は、《歌劇「ピーター・グライムズ」》の幕間の音楽。夜明けから嵐まで、時間と共に移ろいゆく海のさまざまな表情を、まるで変奏曲のように描き分けながら、そこに人間心理の変化を重ね合わせる。

エルガー《変奏曲「謎」》は、音楽による身近な人々のポートレート。曲に秘められた多彩な仕掛けが、パーヴォの実験精神を刺激する。

首席指揮者としての掉尾を飾るのは 思い入れのある超豪華プログラム

[池袋Cプログラム]は、コロナで中止となった2020年5月Bプロの再チャレンジ企画である。最後の2年間、予定していた多くのプロ

ジェクトを諦めるほかなかった私たちが、このプログラムには、首席指揮者としてどうしてもやり遂げたいというパーヴォの強い思いがこもっている。

《アルプス交響曲》は、オーケストラ音楽の可能性をとことん追求したR. シュトラウス^{ひつせい}畢生の大作。登山者が困難を乗り越えて頂上に到るも嵐に遭って下山、やがて日没を迎えるという展開は、ブリテンさながらに、単なる自然描写を超えて、人生そのものの比喩でもある。

《ヨセフの伝説》は、原曲のバレエ音楽が《アルプス交響曲》とほぼ同時期に作曲された。《サロメ》同様、聖書に題材を取りながらも、官能的^{けんらん}に絢爛豪華な音楽絵巻が繰り広げられる。

[西川彰一 / NHK交響楽団演奏制作部長]

※mélomane : フランス語で「音楽愛好家」の意

池袋
A
2/5 土 6:00pm
2/6 日 2:00pm
東京芸術劇場

ブラームス / ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
シューマン / 交響曲 第2番 ハ長調 作品61
指揮: パーヴォ・ヤルヴィ
ピアノ: イゴール・レヴィット



池袋
B
2/16 水 7:00pm
2/17 木 7:00pm
サントリーホール

ブリテン / 歌劇「ピーター・グライムズ」
—4つの海の間奏曲 作品33a
バーバー / ヴァイオリン協奏曲 作品14
エルガー / 変奏曲「謎」作品36
指揮: パーヴォ・ヤルヴィ
ヴァイオリン: ヒラリー・ハーン



池袋
C
2/11 金・祝 7:30pm
2/12 土 2:00pm
東京芸術劇場

R. シュトラウス /
バレエ音楽「ヨセフの伝説」から交響的断章
R. シュトラウス / アルプス交響曲 作品64
指揮: パーヴォ・ヤルヴィ



チケットのご案内(定期公演 2021年9月～2022年6月)

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 [11:00amからの受付]	1月	発売中
	2月	発売延期(新たな発売日は2022年1月中旬までに発表予定)
	4・5・6月	3月2日[水](会員) / 3月6日[日](一般)

※今後の状況によっては発売日が変わる場合があります

※最新の情報はN響ホームページ等でご確認ください

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

※ Aプログラム、CプログラムはNHKホール改修事に伴い、会場をNHKホールから東京芸術劇場(池袋)に移して、「池袋Aプログラム」「池袋Cプログラム」として行います

※ Bプログラムはサントリーホール改修事に伴い、2022年4月公演を休止するため全8回となります。シーズン会員券の販売はございません

※ 池袋Cプログラムは2021～22シーズンから会員券の料金を変更させていただきます

発売開始日 [11:00amからの受付]	年間会員券	販売終了
	シーズン会員券(Autumn / Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	2月22日[火](会員) / 2月25日[金](一般)

※今後の状況によっては発売日が変わる場合があります

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [池袋A]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥9,000 (¥1,000)
年間会員券(8回) [B]	¥58,640 (¥7,330)	¥50,320 (¥6,290)	¥39,120 (¥4,890)	¥31,760 (¥3,970)	¥24,480 (¥3,060)	¥8,000 (¥1,000)
年間会員券(9回) [池袋C]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥8,820 (¥980)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [池袋A]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,820)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,900 (¥1,300)
シーズン会員券(3回) [池袋C]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,780 (¥1,260)

※()内は1公演あたりの単価

WEBセレクト3+

好きな公演を3つ以上セレクトすると、1回券がお得になります。Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いた

します。座席・券種は自由にお選びいただけます。なお、WINTERシーズンは2月の1回券発売が延期されたことに伴い、12月・1月の2か月(6プログラム12公演)を対象として実施いたします。

※ WEBチケットN響のみでの販売となります

※ 1回券発売日からお申し込みいただけます

※ 割引の併用はできません

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただけます

お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

営業時間: 11:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝日、定期公演池袋Aプログラムの翌月曜

●主催公演開催日は曜日に関わらず11:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は11:00am～3:00pmの営業

●感染症予防対策のため電話受付のみの営業

WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhks.or.jp>

Please follow us on     

2021-22定期公演プログラム

2022 01	池袋 A	第1948回	原田慶太楼と反田恭平が魅らせるロシア・ポーランドのメロディ	一般	ユース
		1/15(土) 6:00pm	ショパン(グラスノフ編)/軍隊ポロネーズ イ長調 作品40-1(管弦楽版)	S ¥8,900 S ¥5,500	A ¥7,400 A ¥4,500
		1/16(日) 2:00pm	ショパン(ストラヴィンスキー編)/夜想曲 変イ長調 作品32-2(管弦楽版) パデレフスキ/ポーランド幻想曲 作品19* ストラヴィンスキー/バレエ音楽「火の鳥」(1910年版) 指揮:原田慶太楼 ピアノ:反田恭平*	B ¥5,800 B ¥3,500 C ¥4,700 C ¥2,500 D ¥3,700 D ¥1,500	
B	第1950回	ロシアに学んだアクセルロッドのプロコフィエフ	一般	ユース	
	1/26(水) 7:00pm	ハチャトゥリヤン/組曲「仮面舞踏会」—ワルツ	S ¥8,900 S ¥5,500		
	1/27(木) 7:00pm	プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第3番 八長調 作品26 プロコフィエフ/交響曲 第5番 変ロ長調 作品100 指揮:ジョン・アクセルロッド ピアノ:吉川隆弘 ※当初予定の出演者・曲目から変更になりました。	A ¥7,400 A ¥4,500 B ¥5,800 B ¥3,500 C ¥4,700 C ¥2,500 D ¥3,700 D ¥1,500		
池袋 C	第1949回	アクセルロッド、十八番のブラームス	一般	ユース	
	1/21(金) 7:30pm	ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番ト短調 作品26	S ¥7,400 S ¥4,500		
	1/22(土) 2:00pm	ブラームス/交響曲 第3番 八長調 作品90 指揮:ジョン・アクセルロッド ヴァイオリン:服部百音 ※当初予定の出演者から変更になりました。	A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400		
2022 02	池袋 A	第1951回	パーヴォ・ヤルヴィ、レヴィットと究めるドイツ・ロマン主義の精髓	一般	ユース
		2/5(土) 6:00pm	ブラームス/ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83	S ¥9,800 S ¥5,800	
		2/6(日) 2:00pm	シューマン/交響曲 第2番 八長調 作品61 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:イゴール・レヴィット	A ¥8,400 A ¥4,800 B ¥6,700 B ¥3,800 C ¥5,400 C ¥2,800 D ¥4,400 D ¥1,800	
B	第1953回	パーヴォ・ヤルヴィ&ハーンのイギリス&アメリカ・プログラム	一般	ユース	
	2/16(水) 7:00pm	ブリテン/歌劇「ピーター・グライムズ」—4つの海の間奏曲 作品33a	S ¥9,800 S ¥5,800		
	2/17(木) 7:00pm	パーバー/ヴァイオリン協奏曲 作品14 エルガー/変奏曲「謎」作品36 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ヴァイオリン:ヒラリー・ハーン	A ¥8,400 A ¥4,800 B ¥6,700 B ¥3,800 C ¥5,400 C ¥2,800 D ¥4,400 D ¥1,800		
池袋 C	第1952回	パーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描くアルプスの壮大なパノラマ	一般	ユース	
	2/11(金)祝 7:30pm	R.シュトラウス/バレエ音楽「ヨセフの伝説」から交響的断章	S ¥7,400 S ¥4,500		
	2/12(土) 2:00pm	R.シュトラウス/アルプス交響曲 作品64 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ	A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400		
2022 04	池袋 A	第1954回	ドイツ最高峰の巨匠と紡ぐベートーヴェンの「舞踏交響曲」	一般	ユース
		4/9(土) 6:00pm	ドヴォルザーク/序曲「謝肉祭」作品92	S ¥9,800 S ¥5,800	
		4/10(日) 2:00pm	モーツァルト/フルート協奏曲 第1番ト長調 K. 313 ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92 指揮:クリストフ・エッセンバッハ フルート:スタティス・カラバノス	A ¥8,400 A ¥4,800 B ¥6,700 B ¥3,800 C ¥5,400 C ¥2,800 D ¥4,400 D ¥1,800	
B			サントリーホールの改修工事に伴い、4月定期公演Bプログラムの開催を休止します。		
	池袋 C	第1955回	孤高の巨匠が迫るマーラーの本質——エッセンバッハの《交響曲第5番》	一般	ユース
		4/15(金) 7:30pm	マーラー/交響曲 第5番 嬰ハ短調	S ¥7,400 S ¥4,500	
4/16(土) 2:00pm		指揮:クリストフ・エッセンバッハ	A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400		

池袋	東京芸術劇場 コンサートホール	B	サントリーホール	池袋	東京芸術劇場 コンサートホール		
2022 05	池袋 A	第1956回	こだわりの名匠と一から再構築するシューベルトの巨大な音楽遺産	C	第1956回		
		5/14 土 6:00pm	シューマン／ヴァイオリン協奏曲 二短調			一般 ユース	S ¥8,900 S ¥5,500
		5/15 日 2:00pm	シューベルト／交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」			A ¥7,400 A ¥4,500	B ¥5,800 B ¥3,500
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：マレク・ヤノフスキ ヴァイオリン：アリョーナ・パーエフ	C	第1958回		
		5/25 水 7:00pm	名キャプテンルイージと大海原を音楽で航海する			一般 ユース	S ¥9,800 S ¥5,800
		5/26 木 7:00pm	メンデルスゾーン／序曲「静かな海と楽しい航海」作品27			A ¥8,400 A ¥4,800	B ¥6,700 B ¥3,800
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ファビオ・ルイージ ピアノ：小菅 優	C	第1959回		
		5/20 金 7:30pm	ルイージと丹念に磨き込むウィーン古典派の名品			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		5/21 土 2:00pm	モーツァルト／歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ファビオ・ルイージ ピアノ：アレクサンドル・メルニコフ	C	第1960回		
		5/21 土 2:00pm	モーツァルト／ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K. 466			A ¥8,400 A ¥4,800	B ¥6,700 B ¥3,800
		ベートーヴェン／交響曲 第8番 ヘ長調 作品93	C ¥5,400 C ¥2,800			D ¥4,400 D ¥1,800	
2022 06	池袋 A	第1959回	フランス音楽と文学の幸せなマリアージュ その耽美的な世界に身を委ねる	C	第1959回		
		6/11 土 6:00pm	デュカス／バレエ音楽「ペリ」(ファンファーレつき)			一般 ユース	S ¥8,900 S ¥5,500
		6/12 日 2:00pm	ラヴェル／シェエラザード*			A ¥7,400 A ¥4,500	B ¥5,800 B ¥3,500
2022 06	池袋 B	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ メゾ・ソプラノ：ステファニー・ドゥストラク*	C	第1961回		
		6/17 金 7:30pm	ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲			一般 ユース	S ¥8,900 S ¥5,500
		6/23 木 7:00pm	フロラン・シュミット／バレエ組曲「サロメの悲劇」作品50			A ¥7,400 A ¥4,500	B ¥5,800 B ¥3,500
2022 06	池袋 C	サントリーホール	指揮：鈴木優人 ヴァイオリン：郷古 廉	C	第1962回		
		6/22 水 7:00pm	しなやかに、颯爽と！鈴木優人のモーツァルト《ジュピター》			一般 ユース	S ¥8,900 S ¥5,500
		6/23 木 7:00pm	パッサリ（鈴木優人編）／パッサカリアとフーガ 八短調 BWV582			A ¥7,400 A ¥4,500	B ¥5,800 B ¥3,500
2022 06	池袋 A	第1961回	仏米2人の作曲家が伝える1920～30年代 バリの息吹	C	第1962回		
		6/22 水 7:00pm	プリテン／ヴァイオリン協奏曲 作品15			一般 ユース	S ¥8,900 S ¥5,500
		6/23 木 7:00pm	モーツァルト／交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」			A ¥7,400 A ¥4,500	B ¥5,800 B ¥3,500
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：鈴木優人 ヴァイオリン：郷古 廉	C	第1963回		
		6/22 水 7:00pm	ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥8,900 S ¥5,500
		6/23 木 7:00pm	モーツァルト／交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」			A ¥7,400 A ¥4,500	B ¥5,800 B ¥3,500
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1963回		
		6/17 金 7:30pm	プーランク／バレエ組曲「牝鹿」			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/18 土 2:00pm	プーランク／オルガン協奏曲ト短調			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1964回		
		6/18 土 2:00pm	ガーシュウィン／バリのアメリカ人			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/19 日 2:00pm	ガーシュウィン／バリのアメリカ人			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1964回		
		6/18 土 2:00pm	ガーシュウィン／バリのアメリカ人			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/19 日 2:00pm	ガーシュウィン／バリのアメリカ人			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1965回		
		6/19 日 2:00pm	ガーシュウィン／バリのアメリカ人			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/20 月 2:00pm	ガーシュウィン／バリのアメリカ人			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1965回		
		6/20 月 2:00pm	ガーシュウィン／バリのアメリカ人			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/21 火 2:00pm	ガーシュウィン／バリのアメリカ人			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1966回		
		6/21 火 2:00pm	ガーシュウィン／バリのアメリカ人			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/22 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1966回		
		6/22 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/23 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1967回		
		6/23 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/24 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1967回		
		6/24 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/25 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1968回		
		6/25 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/26 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1968回		
		6/26 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/27 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1969回		
		6/27 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/28 火 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1969回		
		6/28 火 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/29 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1970回		
		6/29 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		6/30 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1970回		
		6/30 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/1 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1971回		
		7/1 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/2 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1971回		
		7/2 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/3 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1972回		
		7/3 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/4 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1972回		
		7/4 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/5 火 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1973回		
		7/5 火 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/6 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1973回		
		7/6 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/7 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1974回		
		7/7 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/8 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1974回		
		7/8 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/9 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1975回		
		7/9 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/10 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1975回		
		7/10 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/11 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1976回		
		7/11 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/12 火 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1976回		
		7/12 火 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/13 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1977回		
		7/13 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/14 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1977回		
		7/14 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/15 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1978回		
		7/15 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/16 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1978回		
		7/16 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/17 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1979回		
		7/17 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/18 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1979回		
		7/18 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/19 火 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1980回		
		7/19 火 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/20 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1980回		
		7/20 水 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/21 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1981回		
		7/21 木 7:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/22 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1981回		
		7/22 金 7:30pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/23 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 A	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1982回		
		7/23 土 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/24 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 B	サントリーホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1982回		
		7/24 日 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/25 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			A ¥6,500 A ¥4,000	B ¥5,200 B ¥3,000
2022 06	池袋 C	東京芸術劇場 コンサートホール	指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	C	第1983回		
		7/25 月 2:00pm	シューマン／ピアノ協奏曲 第1番			一般 ユース	S ¥7,400 S ¥4,500
		7/26					

2022-23定期公演予定(日程・指揮者)

	A	B	C
	NHKホール <small>土</small> <small>日</small>	サントリーホール <small>水</small> <small>木</small>	NHKホール <small>金</small> <small>土</small>
2022 09	9/10 <small>土</small> 11 <small>日</small> ファビオルイージ	9/21 <small>水</small> 22 <small>木</small> ファビオルイージ	9/16 <small>金</small> 17 <small>土</small> ファビオルイージ
2022 10	10/15 <small>土</small> 16 <small>日</small> ヘルベルト・プロムシュテット	10/26 <small>水</small> 27 <small>木</small> ヘルベルト・プロムシュテット	10/21 <small>金</small> 22 <small>土</small> ヘルベルト・プロムシュテット
2022 11	11/12 <small>土</small> 13 <small>日</small> 井上道義	11/23 <small>水</small> 祝 24 <small>木</small> レナード・スラットキン	11/18 <small>金</small> 19 <small>土</small> レナード・スラットキン
2022 12	12/3 <small>土</small> 4 <small>日</small> ファビオルイージ	12/14 <small>水</small> 15 <small>木</small> ファビオルイージ	12/9 <small>金</small> 10 <small>土</small> ファビオルイージ
2023 01	1/14 <small>土</small> 15 <small>日</small> トゥガン・ソヒエフ	1/25 <small>水</small> 26 <small>木</small> トゥガン・ソヒエフ	1/20 <small>金</small> 21 <small>土</small> トゥガン・ソヒエフ
2023 02	2/4 <small>土</small> 5 <small>日</small> 尾高忠明	2/15 <small>水</small> 16 <small>木</small> ヤクブ・フルシャ	2/10 <small>金</small> 11 <small>土</small> 祝 ヤクブ・フルシャ
2023 04	4/15 <small>土</small> 16 <small>日</small> パーヴォ・ヤルヴィ	4/26 <small>水</small> 27 <small>木</small> パーヴォ・ヤルヴィ	4/21 <small>金</small> 22 <small>土</small> パーヴォ・ヤルヴィ
2023 05	5/13 <small>土</small> 14 <small>日</small> 下野竜也	5/24 <small>水</small> 25 <small>木</small> ファビオルイージ	5/19 <small>金</small> 20 <small>土</small> ファビオルイージ
2023 06	6/10 <small>土</small> 11 <small>日</small> ジャンンドレア・ノセダ	6/21 <small>水</small> 22 <small>木</small> ジャンンドレア・ノセダ	6/16 <small>金</small> 17 <small>土</small> ジャンンドレア・ノセダ

※やむを得ない理由で出演者等が変更となる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

- ・ Aプログラム、CプログラムはNHKホールで開催します。
- ・ NHKホールでの公演(Aプログラム、Cプログラム)の開演時間は調整中です。Bプログラムは7:00pm開演予定です。
- ・ 曲目や公演の詳細は2022年3月末に発表する予定です。
- ・ 新シーズンの会員券手続きに関するご案内は、対象の方へ2022年5月中旬にお送りする予定です。

特別公演

1/31(日) 7:00pm | N響「新春」

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:高関 健 ヴァイオリン:白井 圭

リムスキー・コルサコフ/スペイン奇想曲 作品34

メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲「展覧会の絵」

料金(税込):一般 | S席7,200円 A席5,200円 B席3,000円

ユース(25歳以下) | S席5,900円 A席4,300円 B席2,500円

チケット発売中

主催:NHK/NHK交響楽団

協賛:岩谷産業株式会社

お問合せ:N響ガイド TEL (03) 5793-8161

※定期会員は一般料金の10%割引で購入いただけます

※ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)

※定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取り扱いです

※N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前までとなります

各地の公演

2/21(月) 7:00pm

国際音楽祭 NIPPON2022

尾高忠明 指揮 / NHK交響楽団 / 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:諏訪内晶子

シベリウス / 「ペレアスとメリザンド」組曲 作品46

デュティユー / ヴァイオリンと管弦楽のための夜想曲「同じ和音の上で」

ブラームス / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

主催:ジャパン・アーツ

お問合せ:ジャパン・アーツびあコールセンター TEL (0570) 00-1212

2/24(木) 7:00pm

2022都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 53

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:高関 健 ヴァイオリン:南 紫音

チャイコフスキー / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

ブラームス / 交響曲 第1番 ハ短調 作品68

主催・お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

2/26(土) 3:00pm

NHK交響楽団 長岡特別演奏会

長岡市立劇場

出演者・曲目は2月24日と同じ

主催:(公財)長岡市芸術文化振興財団

お問合せ:(公財)長岡市芸術文化振興財団 事業課(長岡リリックホール内)TEL (0258) 29-7715

3/6(日) 5:00pm

NHK交響楽団×野平一郎プロジェクト フルオーケストラによる完結編

シリーズⅢ ロマン派から印象派へ+

野平一郎 静岡トリロジーⅢ「瞬間と永遠の歌」

グランシップ 中ホール・大地

指揮:野平一郎 合唱:静岡児童合唱団・青葉会スベリオル*

ビゼー / 「アルルの女」組曲 第2番

ドビュッシー / 牧神の午後への前奏曲

ラヴェル / バレエ音楽「ラ・ヴァルス」

野平一郎 / 静岡トリロジーⅢ(公益財団法人静岡県文化財団委嘱作品・新作初演)*

主催:(公財)静岡県文化財団・静岡県

お問合せ:グランシップチケットセンター TEL(054) 289-9000

3/13(日) 5:00pm | N響姫路公演

アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)大ホール

指揮:原田慶太様 ピアノ:小曾根 真*
バーンスタイン/「キャンディード」序曲
バーンスタイン(メーソン編)/「ウエスト・サイド・ストーリー」セレクション
ガーシュウィン/ラプソディ・イン・ブルー*
ロジャース&ハマースタインII(ベネット編)/サウンド・オブ・ミュージック
ガーシュウィン(ベネット編)/「ポーギーとベス」交響的絵画

主催:(公財)姫路市文化国際交流財団
お問合せ:(公財)姫路市文化国際交流財団 制作チーム TEL (079) 298-8015

3/14(月) 7:00pm | 開館25周年記念 NHK交響楽団

シンフォニア岩国 コンサートホール

出演者・曲目は3月13日と同じ

主催:シンフォニア岩国指定管理者サントリー・パブリシティサービスグループ
お問合せ:シンフォニア岩国 TEL (0827) 29-1600

3/30(水) 5:00pm | 東京・春・音楽祭 2022 東京春祭ワグナー・シリーズ vol.13

4/2(土) 3:00pm | 《ローエン格林》(演奏会形式/字幕付)

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ ローエン格林:ヴィンセント・ウォルフシュタイナー エルザ:マリータ・ソルベルグ
テルラムント:エギルス・シリンス オルトルート:エレナ・ツイトコーワ ドイツ国王ハインリヒ:タレク・ナズミ
式部官:リヴュー・ホレンダー 合唱:東京オペラシンガーズ ほか
ワグナー/歌劇「ローエン格林」(全3幕)(演奏会形式/字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会
共催:NHK交響楽団
お問合せ:東京・春・音楽祭実行委員会 TEL (03) 5205-6497

4/26(火) 7:00pm | マリア・ドゥエニャス&N響スペシャルコンサート

~メニューイン国際コンクール優勝記念~

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:山田和樹 ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス
ラヴェル/チガース
ファリャ/バレエ組曲「三角帽子」第1番、第2番
ヴェルディ/歌劇「運命の力」序曲
パガニーニ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品6

主催:日本音楽財団
共催:NHK交響楽団、認定NPO法人マギーズ東京
お問合せ:認定NPO法人マギーズ東京チャリティコンサート事務局 TEL (03) 6261-7665

5/3(火) 3:30pm | N響ゴールデン・クラシック 2022

東京文化会館 大ホール

指揮: 高関 健 ヴァイオリン: 周防亮介

チャイコフスキー / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

チャイコフスキー / 交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催: MIYAZAWA & Co.

お問合せ: サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

5/4(水) 4:00pm | 軽井沢大賀ホール 2022春の音楽祭

軽井沢大賀ホール

出演者・曲目は5月3日と同じ

主催: 軽井沢町 / (公財) 軽井沢大賀ホール

お問合せ: 軽井沢大賀ホール TEL (0267) 42-0055

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

3/12(土) 3:30pm

指揮: 原田慶太楼 ピアノ: 小曾根 真*

バーンスタイン / 「キャンディード」序曲

バーンスタイン (メーソン編) / 「ウエスト・サイド・ストーリー」セレクション

ガーシュウィン / ラプソディ・イン・ブルー*

ロジャース & ハーマンスタイン II (ベネット編) / サウンド・オブ・ミュージック

ガーシュウィン (ベネット編) / 「ポーギーとベス」交響的絵画

5/8(日) 3:30pm

指揮: マレク・ヤノフスキ

ベートーヴェン / 「エグモント」序曲

ベートーヴェン / 交響曲 第1番 ハ長調 作品21

ベートーヴェン / 交響曲 第5番 ハ短調 作品67

主催・お問合せ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミール・アシュケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井 圭

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
□倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
☆森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也
山田慶一
横山俊朗

米田有花

村尾隆人

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実穂
○西山健一
○藤村俊介
宮坂拓志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真步
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

◎青山聖樹
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
◎福川伸陽
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 互
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取 藤原弘治
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 平子裕志
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者 谷原 徹
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 小野木昌史
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 黄木紀之
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 山田哲生
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 会長 伊東忠彦	・ (株)NHK エデュケーションナル 代表取締役社長 田波宏視
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長 浅田剛夫	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長 黄木紀之
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 高波博之	・ (株)ウイングツァー 代表取締役 福田健二	・ (学)NHK学園 理事長 篠原朋子
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役会長 川崎靖之	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 根本拓也

- ・(一財)NHK サービスセンター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 大美慶昌
- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティアーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
大田勝幸
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・岡山英世
- ・沖電気工業(株)
代表取締役社長執行役員 | 鎌上信也
- ・花王(株)
代表取締役 社長執行役員
長谷部佳宏
- ・カシオ計算機(株)
代表取締役社長 | 樫尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名誉会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 三宅国紀
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 牧野和宏
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
紅村 康
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 原田一之
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役社長 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 石川雄三
- ・(株)シグマクス・ホールディングス
代表取締役社長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野眞一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀昌宏
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役社長 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSAT ホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーホールディングス(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男

- ・ 関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・ (株)セノン
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・ (株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・ 損害保険ジャパン(株)
代表取締役社長 | 西澤敬二
- ・ 第一三共(株)
代表取締役社長 | 眞鍋 淳
- ・ ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・ 大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・ 大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・ 高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・ (株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・ (株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・ 田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・ 田原 昇
- ・ チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 住田和嘉子
- ・ 中央日本土地建物(株)
代表取締役社長 | 平松哲郎
- ・ 中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・ (株)電通
取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・ (株)テンポブリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・ (株)TOKAIホールディングス
代表取締役社長 | 鶴田勝彦
- ・ 東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・ 東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・ (株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・ 東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・ (株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・ 東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・ 東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・ 桐朋学園大学
学長 | 梅津時比古
- ・ 東邦ホールディングス(株)
取締役最高顧問 | 濱田矩男
- ・ (株)東北新社
代表取締役社長 | 中島信也
- ・ (一財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子真吾
- ・ トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・ 内外施設工業グループホールディングス(株)
取締役会長 | 林 正道
- ・ 中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・ 中山武之
- ・ 日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・ 日東紡績(株)
取締役 代表取締役社長 | 辻 裕一
- ・ 日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・ (株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・ 日本運送(株)
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・ 日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・ (一財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・ 日本郵政(株)
取締役兼代表取締役社長 | 増田寛也
- ・ (株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・ (株)日本デジコム
代表取締役 | 竹井裕二
- ・ 野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・ パナソニック(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
楠見雄規
- ・ (有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・ 東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 井上福造
- ・ (株)日立製作所
執行役社長 | 小島啓二
- ・ (株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・ 福田三千男
- ・ 富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・ 富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・ 古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・ (株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・ (株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 井上樹彦
- ・ 公財放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ 前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・ 町田優子
- ・ (株)松尾楽器商会
代表取締役 | 松尾治樹
- ・ 丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・ 溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・ 三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・ (株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・ 三菱商事(株)
代表取締役社長 | 垣内威彦

- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健
- ・(株)目の眼
代表 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志

- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 藤沼大輔
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆

- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
 - ・ルーム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

曲目解説執筆者

木本麻希子 (きもと まきこ)

博士(学術)。神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究員。東京女子医科大学URA(リサーチ・アドミニストレーター)。専門はプロコフィエフを中心とした20世紀のロシア音楽作品研究。おもな論文に「セルゲイ・プロコフィエフの音楽の暗号と芸術性——《ピアノ・ソナタ》におけるラインとコードのアナグラム」など。

小宮正安 (こみや まさやす)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授。専門はヨーロッパ文化史、ドイツ文学。著書に『コンスタンツェ・モーツァルト——「悪妻」伝説の虚実』『ヨハン・シュトラウス——ワルツ王と落日のウィーン』、訳書に『ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋から』『チャールズ・バーニー音楽見聞録(ドイツ篇)』など。

重川真紀 (しげかわ まき)

博士(文学)。仙台大学非常勤講師。専門は19、20世紀のポーランド音楽史、特にカロル・シマノフスキ研究。共訳書に『ショパン全書簡』シリーズ(『1816～1831年:ポーランド時代』『1831～1835年:パリ時代』[上]、『1836～1839年:パリ時代』[下])、おもな論文に「シマノフスキにとっての原始主義——ストラヴィンスキーとの関わりから」など。

(五十音順、敬称略)

Information

退団 第2ヴァイオリン首席 大林修子(おおばやし のぶこ) 2021年12月31日付で退団。

訃報 当団元首席ヴィオラ奏者(1982年4月入団)で団友の川崎和憲(かわさき かずのり)氏が2021年12月3日に逝去されました。享年66。謹んでご冥福をお祈りいたします。

『フィルハーモニー』編集終了後、以下の通り掲載内容に変更が生じましたのでお知らせいたします。

**2021年12月号
掲載内容変更の
お知らせ**

12月定期公演池袋Cプログラム(東京芸術劇場 | 12/4[土]、5[日])出演者
当初予定の指揮者ワシリー・ペトレンコ氏からガエタノ・デスピノーサ氏へ、チェロ・ソリスト、ダニエル・ミュラー・ショット氏から佐藤晴真氏へ変更となりました。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Paavo Järvi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Kei Shirai

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ☆ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

- Ryuto Murao

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Satoki Aoyama
- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- ◎ Nobuaki Fukukawa
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiya

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa

Tomoki Ando
Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)



Concert No.1948

Tokyo Metropolitan Theatre

January

15(Sat) 6:00pm

16(Sun) 2:00pm

conductor

Keitaro Harada

piano

Kyohei Sorita*

concertmaster

Kei Shirai

**Frédéric François Chopin /
Alexander Glazunov**
Polonaise A Major Op. 40–1
“Polonaise militaire” [4’]

Chopin / Stravinsky
Nocturne A-flat Major Op. 32–2 [8’]

Ignacy Jan Paderewski
Fantaisie polonaise sur
des thèmes originaux G Minor
Op. 19* [24’]

— intermission (20 minutes) —

Igor Stravinsky
“L’oiseau de feu,” ballet (1910 Edition)
[47’]

I Introduction

[I. Tableau]

II Kastchei’s Enchanted Garden

III The Firebird Enters, Pursued by Ivan
Tsarevich

IV The Firebird’s Dance

V Ivan Tsarevich Captures the Firebird

VI The Firebird Begs to Be Released

VII Entrance of the Thirteen Enchanted
Princesses

VIII The Princesses Play with the Golden Apples

IX Ivan Tsarevich Appears

X The Princesses’ Khorovod (Round Dance)

XI Daybreak

XII Ivan Tsarevich, Entering Kastchei’s Palace

XIII Magic Carillon, Appearance of Kastchei’s
Guardian Monsters and Capture of Ivan
Tsarevich

XIV Arrival of Kastchei

XV Dialogue Between Kastchei and Ivan Tsarevich

XVI The Princesses Plead for Mercy

XVII The Firebird Enters

XVIII Dance of Kastchei’s Retinue Under the
Firebird’s Magic SpellXIX Infernal Dance of Kastchei and His Subjects
Under the Firebird’s Magic Spell

XX The Firebird’s Lullaby

XXI Kastchei Awakens

XXII Kastchei’s Death

XXIII Darkness

[II. Tableau]

XXIV Kastchei’s Spell Is Broken, His Palace

Disappears, and the Petrified Knights Return
to Life

Under the auspice of: Toshima City

Keitaro Harada, conductor



Keitaro Harada was born in Tokyo in 1985, and when he was 17, he went to the United States on his own to go under the tutelage of Frederick Fennell at Interlochen Arts Academy, and then studied further under Lorin Maazel. Subsequently, he served as Associate Conductor of the Cincinnati Symphony Orchestra, Cincinnati Pops Orchestra and Arizona Opera, and from 2020, he assumed the position of Music and Artistic Director of the Savannah Philharmonic. From 2021, he is also Associate Conductor of the Tokyo Symphony Orchestra. His first appearance with the NHK Symphony Orchestra in August 2019 was a great success and a live recording of the orchestra's concert in the program with a wide ranging American repertoire including works of Bernstein, Piazzolla, and Márquez he conducted in November 2020 was released as an album.

Kyohei Sorita, piano



Kyohei Sorita, one of the most popular Japanese pianists today, was born in 1994, and was the winner of the 2nd prize of the International Chopin Piano Competition in October 2021. He has worked with renowned orchestras including the Deutsches Symphonie-Orchester Berlin, the Mariinsky Orchestra and the Russian National Orchestra. In 2020, he made his first appearance at the Musikverein in Vienna.

He has worked with the NHK Symphony Orchestra before but this is the first time to appear in its subscription concert.

[Keitaro Harada by Haruo Yamada, music critic, Kyohei Sorita by Haruka Kosaka, music journalist]

Program Notes | Kumiko Nishi

Frédéric François Chopin (1810–1849) / Alexander Glazunov (1865–1936)

Polonaise A Major Op. 40–1 “Polonaise militaire” (Orchestral Version)

Poland's national hero Chopin wrote *Polonaise militaire* (*Military Polonaise*) for solo piano in exile in France. Its orchestral version by the Russian composer A. Glazunov was used for the original production of the ballet *Chopiniana* (later renamed *Les Sylphides*). Choreographed by M. Fokine, the ballet was first staged at the Mariinsky Theatre, Saint Petersburg. Pupil of N. Rimski-Korsakov who was a master of orchestration, Glazunov takes advantage of the brass and timpani to emphasize the brilliant majesty of Chopin's original work.

Nocturne A-flat Major Op. 32–2 (Orchestral Version)

Published in 1837, Chopin's *Nocturne* in A-flat Major starts with a two-bar introduction followed by a simple but elegantly flowing melody. Another pupil of Rimski-Korsakov, the Russian composer Stravinsky orchestrated it for the ballet *Les Sylphides*, a revised version of the above-mentioned *Chopiniana*. This version was world premiered in 1909 at the Théâtre du Châtelet, Paris. For the young Stravinsky, this score was the first assignment by the impresario S. Diaghilev and his dance company, Ballets Russes, which led to their historically important collaborations, notably "The Rite of Spring."

Ignacy Jan Paderewski (1860–1941)

Fantaisie polonaise sur des thèmes originaux G Minor Op.19

Paderewski wore several hats, as a world-class pianist, composer and politician serving as the Prime Minister of independent Poland. Furthermore, his name is famous for the Paderewski Edition of Chopin's works. *Fantaisie polonaise* (*Polish Fantasy*) was premiered in England in 1893 when Poland was still occupied. It consists of four movements performed continuously, and the themes of Paderewski's own remind us of Polish folk dances. Impressive for a majestic opening, this fantasy shows us various faces like humorous, melancholic, bewitching and radiant.

Igor Stravinsky

"L'oiseau de feu," ballet (1910 Edition)

The young Stravinsky leaped to international fame with his three ballet scores commissioned by Diaghilev and Ballets Russes. All three were premiered in Paris between 1910 and 1913 causing a great sensation. The first of them, *L'oiseau de feu* (*The Firebird*) with a colorful, dazzling music testifies to us how skillful in orchestration the twenty-seven-year-old composer was. In the story based on Russian fairy tales, Prince Ivan captures the Firebird in the magical garden of the evil Kastchei the Immortal.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B**Concert No.1950****Suntory Hall****January****26(Wed) 7:00pm****27(Thu) 7:00pm**

conductor**John Axelrod****piano****Takahiro Yoshikawa****concertmaster****Fuminori Maro Shinozaki**

Aram Khachaturian**“Masquerade,” suite – Waltz [4’]****Sergei Prokofiev****Piano Concerto No. 3 C Major****Op. 26 [27’]**

I Andante – Allegro

II Andantino

III Allegro, ma non troppo

— intermission (20 minutes) —

Sergei Prokofiev**Symphony No. 5 B-flat Major****Op. 100 [45’]**

I Andante

II Allegro marcato

III Adagio

IV Allegro giocoso

* The performer and program have changed from the original plan.

Artist Profiles

John Axelrod, conductor

John Axelrod has served as Music Director of Luzerner

Sinfonieorchester and Theater, Music Director of Orchestre National des Pays de la Loire, Principal Conductor of Orchestra Sinfonica di Milano “G. Verdi,” and Music Director of Real Orquesta Sinfónica de Seville. Axelrod has conducted over 150 orchestras, includes Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, Filarmonica della Scala, Prague Radio

Symphony Orchestra, Netherlands Philharmonic, Sinfonica Nazionale della RAI Torino, Orchestra del Maggio Musicale Fiorentino in recent seasons. He is currently Principal Guest Conductor of City of Kyoto Symphony Orchestra.

Born in Houston, graduated from Harvard University. Trained personally by Leonard Bernstein and also studied at the St. Petersburg Conservatoire with Ilya Musin. Since his first collaboration in 2010, he has frequently worked with the NHK Symphony Orchestra.

Takahiro Yoshikawa, piano



Actually Takahiro Yoshikawa holds recitals and concerts with orchestra in Italy and Japan. He has performed as soloist at Teatro alla Scala in Milan on several occasions. In May 2011 he performed for the broadcaster NHK in a recital in Kyoto in Japan, which was broadcast on NHK Premium. Since 2008 he holds regular recitals in one of the most prestigious halls of Tokyo, Suntory Hall.

He made his debut with the NHK Symphony Orchestra as a soloist on its “Music Tomorrow 2021.” This is his second appearance with the orchestra.

Program Notes | Kumiko Nishi

Aram Khachaturian (1903–1978)

“Masquerade,” suite – Waltz

Of Armenian descent, Khachaturian was a preeminent Soviet composer. This suite (1944) consists of five dances that he reworked from his incidental music for the play “Masquerade.” In this tragedy set in Imperial Russia’s aristocratic society, the wealthy gambler Arbenin suspects that his wife is betraying him. She dances this ominous “Waltz” during a ball scene where the overjealous husband gives her a fatally poisoned ice cream.

Sergei Prokofiev (1891–1953)

Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26

Born during Russia’s imperial period and dying on the same day as Stalin, Prokofiev led a dramatic life like other Soviet musicians. He premiered this ultra-virtuosic concerto as a soloist in Chicago in 1921 during his overseas period in exile. The energetic first movement is followed by the middle movement written as a theme and five variations. Prokofiev himself called the final movement an “argument” between piano and orchestra.

Sergei Prokofiev

Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100

After emigration, Prokofiev returned in 1936 to his home, the USSR then, for good. His fifth symphony was written quickly in 1944 amid World War, and as Prokofiev himself admitted, his motive for the composition was patriotic. Indeed, from the heroic opening to the highly optimistic ending, he makes the best use of the percussion and brass to create an epic military mood accentuating it by dotted rhythms.

Kumiko Nishi | For a profile of Kumiko Nishi, see p. 41

PROGRAM

Ikebukuro

C

Concert No.1949

Tokyo Metropolitan Theatre

January

21 (Fri) 7:30pm

22 (Sat) 2:00pm

conductor

John Axelrod

for a profile of John Axelrod, see p. 42

violin

Moné Hattori

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Ikebukuro Program C] Friday 21st from 6:45pm / Saturday 22nd from 1:15pm
Fuminori Maro Shinozaki (vn.), Masamichi Yokoshima (vn.), Shotaro Nakamura (va.), Hiroya Ichi (vc.), Shinji Nishiyama (cb.)
Lanner / Angerer “Die Mozartisten,” waltz Op. 196

*You may enter and leave as you please during the performance. *Enjoy chamber music from your own seat.

Max Bruch

Violin Concerto No. 1 G Minor

Op. 26 [24’]

I Vorspiel: Allegro moderato

II Adagio

III Finale: Allegro energico

Johannes Brahms

Symphony No. 3 F Major Op. 90 [33’]

I Allegro con brio

II Andante

III Poco allegretto

IV Allegro

* This concert will be performed with no intermission.

* The performer has changed from the original plan.

Under the auspice of: Toshima City

Artist Profile

Moné Hattori, violin



Winner of five international violin competitions and likened to a young Hilary Hahn (Stereo Magazine), Moné Hattori is fast emerging as one of the most exciting violinists of her generation. She is widely heralded as “a virtuoso violinist, brilliant and sparkling” (France Musique), and “dazzling beyond her years” (BBC Music Magazine), with playing described as “utter perfection, emotionally touching and passionate,

enthusing with radiance, musicality, and perfect technique.”

Moné Hattori plays on an 18th century violin by Guarneri del Gesu, on generous loan from Nippon Violin Co., Ltd.

Max Bruch (1838–1920)

Violin Concerto No. 1 G Minor Op. 26

Brahms' compatriot, Bruch is known for his deeply romantic style with mellifluous melodies and harmonies. Since its premiere in 1868 as the definitive version, Op. 26 has enjoyed an enduring popularity. Though written in a conventional three-movement layout, it has an inventive structure starting with the short introductory movement followed, without pause, by the melodious slow movement. In the finale, the soloist states the spirited main theme with “double stops,” the technique of playing two notes simultaneously.

Johannes Brahms (1833–1897)

Symphony No. 3 F Major Op. 90

Feeling the shadow of Beethoven, Brahms spent over twenty years to complete his first symphony. In contrast, No. 3 was written speedily in 1883 to be the shortest of his all four symphonies. Composed of four movements, No. 3 begins with two strong, wide chords by the winds showing a “motto” (brief motif) of the whole piece. It is widely thought that this motif with three notes (F – A \flat – F) refers to “*Frei aber froh*” (free but happy), Brahms' favorite life motto.

Kumiko Nishi | For a profile of Kumiko Nishi, see p. 41

A **Tokyo Metropolitan Theatre**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **Tokyo Metropolitan Theatre**
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2022
05

ikebukuro
A

Concert No. **1956**

May

14 (Sat) 6:00pm

15 (Sun) 2:00pm

Tokyo Metropolitan
Theatre

Schumann Violin Concerto D Minor
Schubert Symphony No. 8 C Major D. 944 "Die Große"

Marek Janowski, conductor
Alena Baeva, violin

Ordinary	Youth
S 8,900	S 5,500
A 7,400	A 4,500
B 5,800	B 3,500
C 4,700	C 2,500
D 3,700	D 1,500

B

Concert No. **1958**

May

25 (Wed) 7:00pm

26 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Mendelssohn "Meeresstille und glückliche Fahrt," overture Op. 27
Ravel Piano Concerto G Major
Rimsky-Korsakov "Schéhérazade," symphonic suite Op. 35

Fabio Luisi, conductor
Yu Kosuge, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 5,800
A 8,400	A 4,800
B 6,700	B 3,800
C 5,400	C 2,800
D 4,400	D 1,800

ikebukuro
C

Concert No. **1957**

May

20 (Fri) 7:30pm

21 (Sat) 2:00pm

Tokyo Metropolitan
Theatre

Mozart "Don Giovanni," opera K. 527 – overture
Mozart Piano Concerto No. 20 D Minor K. 466
Beethoven Symphony No. 8 F Major Op. 93

Fabio Luisi, conductor
Alexander Melnikov, piano

Ordinary	Youth
S 7,400	S 4,500
A 6,500	A 4,000
B 5,200	B 3,000
C 4,200	C 2,000
D 3,200	D 1,400

2022
06

ikebukuro
A

Concert No. **1959**

June

11 (Sat) 6:00pm

12 (Sun) 2:00pm

Tokyo Metropolitan
Theatre

Dukas "La Péri," poème dansé (With its appended Fanfare)
Ravel Schéhérazade*
Debussy Prélude à l'après-midi d'un faune
Florent Schmitt "La tragédie de Salomé," ballet suite Op. 57

Stéphane Denève, conductor
Stéphanie d'Oustrac, mezzo soprano*

Ordinary	Youth
S 8,900	S 5,500
A 7,400	A 4,500
B 5,800	B 3,500
C 4,700	C 2,500
D 3,700	D 1,500

B

Concert No. **1961**

June

22 (Wed) 7:00pm

23 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Bach / Suzuki Passacaglia and Fugue C Minor BWV582
Britten Violin Concerto Op. 15
Mozart Symphony No. 41 C Major K. 551 "Jupiter"

Masato Suzuki, conductor
Sunao Goko, violin

Ordinary	Youth
S 8,900	S 5,500
A 7,400	A 4,500
B 5,800	B 3,500
C 4,700	C 2,500
D 3,700	D 1,500

ikebukuro
C

Concert No. **1960**

June

17 (Fri) 7:30pm

18 (Sat) 2:00pm

Tokyo Metropolitan
Theatre

Poulenc "Les biches," ballet suite
Poulenc Organ Concerto G Minor
Gershwin An American in Paris

Stéphane Denève, conductor
Olivier Latry, organ

Ordinary	Youth
S 7,400	S 4,500
A 6,500	A 4,000
B 5,200	B 3,000
C 4,200	C 2,000
D 3,200	D 1,400

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

The Subscription Concerts Program 2022–23

	A	B	C
	NHK Hall [Sat][Sun]	Suntory Hall [Wed][Thu]	NHK Hall [Fri][Sat]
2022 09	9/10(Sat), 11(Sun) Fabio Luisi	9/21(Wed), 22(Thu) Fabio Luisi	9/16(Fri), 17(Sat) Fabio Luisi
2022 10	10/15(Sat), 16(Sun) Herbert Blomstedt	10/26(Wed), 27(Thu) Herbert Blomstedt	10/21(Fri), 22(Sat) Herbert Blomstedt
2022 11	11/12(Sat), 13(Sun) Michiyoshi Inoue	11/23(Wed), 24(Thu) Leonard Slatkin	11/18(Fri), 19(Sat) Leonard Slatkin
2022 12	12/3(Sat), 4(Sun) Fabio Luisi	12/14(Wed), 15(Thu) Fabio Luisi	12/9(Fri), 10(Sat) Fabio Luisi
2023 01	1/14(Sat), 15(Sun) Tugan Sokhiev	1/25(Wed), 26(Thu) Tugan Sokhiev	1/20(Fri), 21(Sat) Tugan Sokhiev
2023 02	2/4(Sat), 5(Sun) Tadaaki Otaka	2/15(Wed), 16(Thu) Jakub Hrůša	2/10(Fri), 11(Sat) Jakub Hrůša
2023 04	4/15(Sat), 16(Sun) Paavo Järvi	4/26(Wed), 27(Thu) Paavo Järvi	4/21(Fri), 22(Sat) Paavo Järvi
2023 05	5/13(Sat), 14(Sun) Tatsuya Shimono	5/24(Wed), 25(Thu) Fabio Luisi	5/19(Fri), 20(Sat) Fabio Luisi
2023 06	6/10(Sat), 11(Sun) Gianandrea Noseda	6/21(Wed), 22(Thu) Gianandrea Noseda	6/16(Fri), 17(Sat) Gianandrea Noseda

All programs subject to change.

「良い教育は、
良い環境から」

— 学園創立者 —



川並 香順 川並 孝子



《幼稚園から大学院まで計18の教育機関》

*実就職率 **96.3%** (全国女子大学ランキング1位)^{*1} *教育系就職率 **8年連続 100%**

*保育士採用数 **15年連続全国1位**^{*2} *幼稚園教員採用数 **8年連続 14回目 全国1位**^{*2}

※1：大学通信調べ卒業生 500人以上の女子大の実就職率ランキング ※2：朝日新聞出版【AERA ムック】大学ランキング 2022年版



聖徳大学 (女子)

聖徳大学短期大学部 (女子)

SEITOKU

〒271-8555

千葉県松戸市岩瀬 550

TEL.047-365-1111 (大代表)

聖徳大学

検索

<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校
光英 VERITAS 高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英 VERITAS 中学校
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)

ME NO ME SINCE 1977 目の眼

モノが語る“声”を届ける

創刊から半世紀。月刊誌『目の眼』は、古美術・骨董の世界を広く深く読み解き、その愉しみを伝えています。

毎月15日発売・1,320円税込

最新号[1月号] WEB無料公開中
<http://menomeonline.com>



ME NO ME SINCE 1977 目の眼

古美術 骨董 月刊誌

2022.no.544

神仏のみやび

春日信仰の古美術
杉本博司 田島充 白洲信哉

瀬田洋一郎 原珠哉 内田風知 藤田純作

好きなホールで、
極上のひとときを。



世界のコンサートホールをすべて手に入れることはできませんが、
その珠玉のサウンドをすべて手にすることは夢ではありません。
いつでも好きな時に、好きなホールで、極上のひとときを。
クラシック愛好家にとって、これほどの贅沢が、他にあるでしょうか。

ESOTERIC — いつかあなたが夢を叶えるために。



ネットワークDAC/プリ
N-05XD

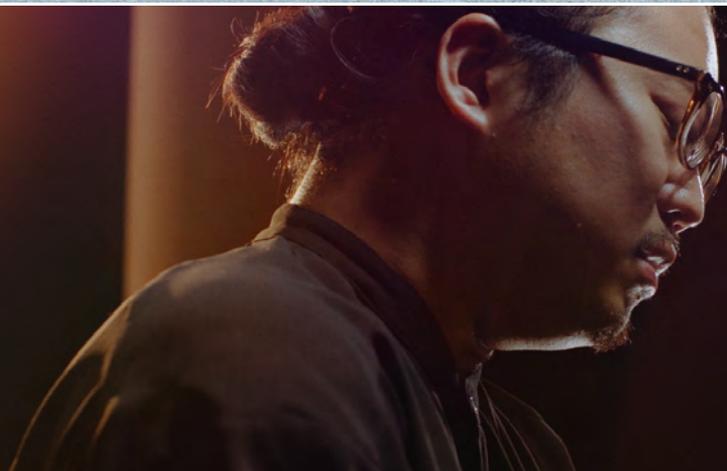


ESOTERIC



THE

X7



My
FIRST
BMW

国内外で幅広く活躍するピアニストの反田恭平さんが、自分にとっての“初めてのBMWへの想い”を語る。「MY FIRST BMW」はこちらから。
bmw.co.jp

詳しくはお近くのBMW正規ディーラー、またはBMWカスタマー・インタラクティブ・センターへ 0120-269-437



世界が注目
スペインの逸材
ついに、日本デビュー

KAZUKI YAMADA
CONDUCTOR

メニューイン国際コンクール優勝記念

マリア・ドウエニャス

& N響スペシャルコンサート

MARÍA DUEÑAS

& NHK SYMPHONY ORCHESTRA SPECIAL CONCERT

ヴァイオリン: マリア・ドウエニャス

グアルネリ・デル・ジェス1736年製ヴァイオリン「ムンツ」使用

指揮: 山田和樹

管弦楽: NHK交響楽団

2022年4月26日 火 開演 19:00
開場 18:00

東京芸術劇場コンサートホール

S ¥9,000 A ¥8,000 B ¥6,000 C ¥5,000 D ¥3,000

※出演者・曲目に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。

※原則として、公演中止以外でのチケットの払い戻しはいたしません。

※本公演では新型コロナウイルス感染防止対策を実施します。

※会場内での撮影、録音、録画等はお断りいたします。

※開演時に遅れますとご入場をお待ちいただくことがあります。

※車いすのままご鑑賞をご希望の方は、事前にお問合せ先にご連絡ください。

※就学前のお子様のお同伴・入場はご遠慮ください。

【チケット収益について】

コンサートのチケット収益は、がんを経験している人とその家族や友人など、
がんに影響を受ける方々への無料の相談支援の場『マギーズ東京』の運営費となります。

主催: 日本音楽財団

共催: NHK交響楽団、認定NPO法人マギーズ東京

助成: 日本財団(予定)

チケット取り扱い

N響ガイド 03-5793-8161

東京芸術劇場ボックスオフィス

0570-010-296 <https://www.geigeki.jp/ti/>

チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

マギーズ東京Peatix <https://maggiestokyo.peatix.com/>

チケットのお問合せ 認定NPO法人マギーズ東京チャリティーコンサート事務局

03-6261-7665 concert@maggiestokyo.org

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

MAGGIE'S
Tokyo

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

新春響

NEW YEAR CONCERT

リムスキー・コルサコフ

スペイン奇想曲 作品 34

Rimsky-Korsakov / *Capriccio espagnol Op. 34*

メンデルスゾーン

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品 64

Mendelssohn / *Violin Concerto E Minor Op. 64*

ムソルグスキー(ラヴェル編)

組曲「展覧会の絵」

Mussorgsky (Ravel) / *"Tableaux d'une exposition," suite*



指揮

高関 健

Ken Takaseki, conductor



ヴァイオリン

白井 圭

Kei Shirai, violin

主催：NHK/NHK交響楽団 ●協賛：岩谷産業株式会社

2022年1月31日 [日] 7:00pm

東京オペラシティ コンサートホール

■ 発売開始：2021年11月16日 [火] 11:00am ■ N響定期会員先行発売：11月11日 [木] 11:00am

■ 料金 (税込)

一般	コースチケット (25歳以下)
S ¥7,200	S ¥5,900
A ¥5,200	A ¥4,300
B ¥3,000	B ¥2,500

※定期会員は一般料金から10%割引

■ 前売所

- WEBチケットN響：https://ticket.nhkso.or.jp/ (手数料無料)
- N響ガイド：03-5793-8161
- 東京オペラシティ チケットセンター：03-5353-9999
- チケットぴあ：pia.jp/nhkso (電子チケット利用可)
- e+(イープラス)：eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット：0570-000-407 l-tike.com/nhkso

東京オペラシティ
コンサートホール

アクセス

京王新線(都営地下鉄新宿線乗り入れ)
初台駅東口より徒歩5分

※コースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。感染症予防対策のために、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)。※定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取り扱いとなります。※まいす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。※未就学児のご入場はお断りしています。 ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。 ※チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」(下記URLおよび右記QRコードのリンク先)を必ずお読みください。
www.nhkso.or.jp/news/20200710_2.html



【お問い合わせ】N響ガイド 03-5793-8161

営業時間：11:00am～5:00pm
定休日：土・日・祝日 / 定期公演池袋Aプログラムの翌月曜

※主催公演開催日は曜日に関わらず11:00am～開演時刻まで営業いたします

※発売初日の土・日・祝日は11:00am～3:00pmの営業となります

※感染症予防対策のため電話受付のみの営業となります

www.nhkso.or.jp

Follow us on



水素で世界を動かせ。

Iwatani
岩谷産業株式会社

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Marui gas**の全国販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、低炭素なLPガスの開発、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1[※]

※国内における販売シェア(2021年5月現在、自社調べ)

Iwatani

岩谷産業株式会社